

報告②

鳴門教育大学 授業実践・カリキュラム開発コース
教授 小野瀬 雅人

■報告

「本大学カリキュラムに関する卒業生アンケート結果について」

小野瀬 雅人

鳴門教育大学
授業実践・カリキュラム開発コース

2010年9月23日(土)14:00~14:10
鳴門教育大学 講義棟 B101

報告の概要

- I 学部生の本学学部カリキュラムの評価(報告1)
平成20年3月卒の学生(旧カリキュラム履修者)と平成21年3月卒以降の学生(新カリキュラム履修者)を対象に、卒業時に実施したアンケート結果を比較検討した結果を報告する。
- II 教員となった学部卒業生の本学学部カリキュラムの評価(報告2)
報告1と同じ属性の卒業生のうち、徳島県の教員として採用され、教職を経験した者を対象に、Iと同様のアンケートを実施し、その結果を比較検討した結果を報告する。

I 学部生の本学学部カリキュラムの評価(報告1)

- 旧カリ履修者(平成20年卒)と新カリ履修者(平成21年卒・平成22年卒)を対象としたアンケート結果について比較・検討し、両者間に差異が認められたものを取り上げ報告する。
- 分析は、全項目を対象に、5段階評価で5点と4点、つまり、「肯定評価」(例:理解…5:分かり易い、4:どちらかといえば分かり易い)とそれ以外(3:普通、2:どちらかといえば分かりにくい、1:分かりにくい)を選択した者の人数(割合)に差が認められたものを中心に取り上げる。

I 学部生の本学学部カリキュラムの評価(報告1)

- (1)教育内容の質・量 **【報告資料p.1】**
- Q3-1-1 講義内容のレベル(高い:約20~30%) 差なし
- Q3-1-2 講義内容の理解(分かり易い:約20~40%)
旧カリ卒<新カリ卒
- Q3-1-3 必修の講義時間数(多い:約20~40%)
旧カリ卒>新カリ卒

I 学部生の本学学部カリキュラムの評価(報告1)

- (1)教育内容の質・量 **【報告資料p.1】**
- Q3-1-2 講義内容の理解(分かり易い) 旧カリ卒<新カリ卒



I 学部生の本学学部カリキュラムの評価(報告1)

- (1)教育内容の質・量 **【報告資料p.1】**
- Q3-1-3 必修の講義時間数(多い) 旧カリ卒>新カリ卒



I 学部生の本学学部カリキュラムの評価(報告1)

(2)受講した実習・演習内容のレベル 【報告資料p.2】

Q3-2-1 実習・演習内容のレベル(高い:約40~60%)
差なし

Q3-2-2 実習・演習内容の理解(分かり易い:40~60%)
旧カリ卒<新カリ卒

Q3-2-3 実習・演習内容の必修時間数(多い:20~40%)
旧カリ卒>新カリ卒

I 学部生の本学学部カリキュラムの評価(報告1)

(2)受講した実習・演習内容のレベル 【報告資料p.2】

Q3-2-2 実習・演習内容の理解(分かり易い)
旧カリ卒<新カリ卒

図1-2-2 必修の講義時間数

I 学部生の本学学部カリキュラムの評価(報告1)

(2)受講した実習・演習内容のレベル 【報告資料p.2】

Q3-2-3 実習・演習内容の必修時間数(多い)
旧カリ卒>新カリ卒

図1-2-3 実習演習内容の必修時間数

I 学部生の本学学部カリキュラムの評価(報告1)

(3)教育実習全体 【報告資料p.3】

Q3-3-1 教育実習の内容のレベル(高い:約60~70%)

Q3-3-2 教育実習の内容の理解(分かり易い:約50~60%)

Q3-3-3 必修とされる教育実習の時間数(多い:20~30%)

(4)教職コア科目(新カリ卒のみ)

Q3-4-1 実践的指導力に役立ったか(よい:約50%)

(5)卒業研究

Q3-5-1 教員の指導(よい:約70~80%)

Q3-5-2 満足度(よい:約60~70%)

※いずれも旧カリ卒・新カリ卒で差なし

I 学部生の本学学部カリキュラムの評価(報告1)

(6)教育環境
事務窓口対応:よい・約30%;
大学企画主催・行事の質:よい・約40~50%) 旧カリ卒<新カリ卒

(7)大学教員
指導力・人間的・教育的愛情:よい・約50%) 差なし

(8)学生生活
学生支援・就職・進学支援:よい・約50~60%) 旧カリ卒<新カリ卒

(9)本学で学んだことの成果(15項目)
Q7-2-9 リーダーシップ・実行力(はい:60~70%)
旧カリ卒<新カリ卒

I 学部生の本学学部カリキュラムの評価(報告1)

(10)総合評価

Q7-3 本学カリキュラムの有効性
(社会に出て役立つ・活かせる)
旧カリ卒<新カリ卒

図1-10-1 本学カリキュラムの有効性

II 教員となった卒業生からみた本学学部カリキュラム
(報告2)

【報告資料p.10】

新カリ卒者と旧カリ卒者で卒業時(3月)に実施した報告1と同じ質問紙を用いて、徳島県の教員として採用され、教職を経験した者を対象に調査を行い、本学の新旧カリキュラムについてどのように評価しているかを、新カリ卒者と旧カリ卒者で比較検討する。

徳島県内の教員に限定したため、調査対象者数は少ない。そのため、分析考察は慎重に進める必要がある。

- ・旧カリ卒者(旧カリキュラム履修) 12名
- ・新カリ卒者(新カリキュラム履修) 8名

II 教員となった卒業生からみた本学学部カリキュラム
(報告2)

(1)旧カリ卒者と新カリ卒者で差のみられた項目

【報告資料p.10】

- ⇒ Q2-1-1(講義内容のレベル)のみ
※講義内容のレベルが高いと評価
旧カリ卒者 < 新カリ卒者

それ以外の項目では差異はなかった。

- ⇒ 対象者数が少ないことが一因
※ 面接調査の併用も必要。

II 教員となった卒業生からみた本学学部カリキュラム
(報告2)

(2)評価の高い項目と低い項目 【報告資料p.10】

①新カリ卒者、旧カリ卒者ともに評価が高かった項目
(4点以上)

- Q2-3-2(実習演習の内容理解)
- Q2-5-1(卒業研究の教員の指導)
- Q6-2(本学で学んだ具体的成果:協調性)
- Q6-3(総合評価)

II 教員となった卒業生からみた本学学部カリキュラム
(報告2)

②新カリ卒者で高かった項目(4点以上)。【報告資料p.10】

- Q2-2-2(実習・演習の内容理解)
- Q2-3-1(実習演習のレベル)
- Q3-5 (大学が企画主催する行事の質
<合宿、就職ガイダンス、教採対策等>)
- Q6-2 (本学で学んだ具体的成果:他者に対する人間的愛情)

II 教員となった卒業生からみた本学学部カリキュラム
(報告2)

③特に低かった項目(3点以下)は新カリ卒者のみ
【報告資料p.10】

- Q4-4(学内のゼミ室等個別的学習環境)
- Q7-2(本学で学んだ具体的成果:学級経営能力、生徒指導能力)

II 教員となった卒業生からみた本学学部カリキュラム
(報告2)

(3)自由記述の分析結果(表1参照) 【報告資料p.11】

・本学の良かったところ	旧カリ卒	新カリ卒
少人数による指導・学習環境	8/12名	4/8名
自然に恵まれた環境	4/12名	2/8名
・本学の改善してほしいところ	旧カリ卒	新カリ卒
授業実践力に生きる指導	3/12名	3/8名
生徒指導・学級経営力 (の指導)	2/12名	

II 教員となった卒業生からみた本学学部カリキュラム (報告2)

(4)旧カリ卒者より新カリ卒者の方が肯定回答(例:高い)の割合(人数)が比較的大きかった項目(%)

旧カリ卒<新カリ卒

【報告資料p.11】

	旧カリ卒12名	新カリ卒8名
①講義内容のレベル	2名(16.7)	6名(75.0)
②講義内容の理解	3名(33.4)	5名(62.5)
③実習・演習の内容理解	7名(58.3)	6名(75.0)
④就職・進路支援	7名(58.3)	6名(75.0)

II 教員となった卒業生からみた本学学部カリキュラム (報告2)

(5)新カリ卒より旧カリ卒者の方が肯定回答の割合(人数)が比較的大きかった項目(%)

旧カリ卒>新カリ卒

【報告資料p.12】

	旧カリ卒12名	新カリ卒8名
①図書館の蔵書・環境	8名(66.7)	3名(37.5)
②学級経営能力	3名(33.4)	0名(0.0)
③生徒指導能力	5名(41.7)	1名(12.5)

※報告Iの自由記述の結果とほぼ同じ。

III 全体のまとめ

- 新カリキュラム履修者は、旧カリキュラム履修者よりも、次の点において高い評価をしている。
 - ①講義内容の理解(分かり易い)-レベル(高い)
 - ②学習成果が社会に出て役立つ・活かせる
- 新カリキュラム履修者は、旧カリキュラム履修者よりも、必修の講義・実習・演習の時間が多いと評価する者が少ない。⇒ 理解力・思考力・実行力の育成につながる!?
- 他方、教育実践力との関係では、「学級経営能力」「生徒指導能力」の指導において、旧カリキュラムと同様、新カリキュラムにおいても課題が残ったといえる。

ご清聴ありがとうございました

本大学カリキュラムに関する卒業生アンケート結果について

小野瀬 雅 人

(鳴門教育大学 授業実践・カリキュラム開発コース)

本資料は、鳴門教育大学が平成17年度入学者から導入した新カリキュラム(コア・カリキュラム)の効果を検証するため、学部卒業時(報告1)と卒業後教職に就いた後(報告2)に実施したアンケート結果を比較・分析したものである。その結果、新カリキュラムを履修した学生は、それ以前の旧カリキュラム履修学生と比べ、講義内容や実習・演習の理解、リーダーシップ・実行力の修得の項目で、肯定的に評価している者が多いことが明らかとなった。

I 学部生の本学学部カリキュラムの評価(報告1)

1. 目的

本報告の目的は、平成20年3月卒の学生(旧カリキュラム履修者:以下、旧カリ卒者)と平成21年3月卒以降の学生(新カリキュラム履修者:以下、新カリ卒者)を対象として、それぞれ卒業時に実施した「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート」結果を比較検討することにある。

2. 方法

調査年月・調査対象

- ・平成20(2008)年3月:旧カリキュラム履修者(旧カリ卒者)108名。
- ・平成21(2009)年3月:新カリキュラム履修者(新カリ卒者)102名。
- ・平成22(2010)年3月:新カリキュラム履修者(新カリ卒者)114名。

質問内容

添付資料参照

3. 結果と考察

鳴門教育大学が学部生を対象に卒業時に実施したアンケート結果3回分について、比較検討を行った。

以下の項目の分析は、肯定回答(例:高い、どりらかといえば高い)割合を中心に示し、卒業年で旧カリキュラム履修者と新カリキュラム履修者で人数の偏りに差があるか否かに焦点をあて分析し考察を行った。

(1) 教育内容の質・量

① Q3-1-1 講義内容のレベル(図2-1)

肯定回答(高い)は約20~30%で、やや少ない程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒

者で人数に差はなかった。
%

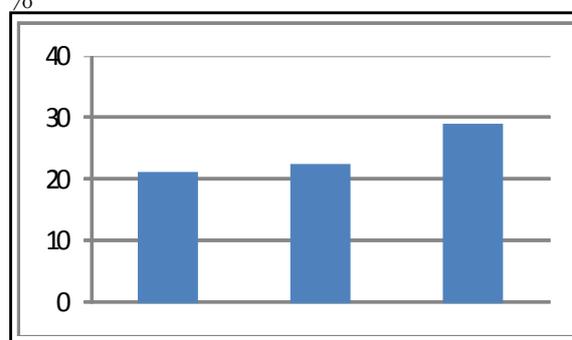


図1-1-1 講義内容のレベル

② Q3-1-2 講義内容の理解(図1-1-2)

肯定回答(分かり易い)は、旧カリ卒者が約20%、新カリ卒者が30~40%で、やや少ない程度であった。新カリ卒者は旧カリ卒者と比べ、人数が有意に多かった。したがって、新カリ卒者は、旧カリ卒者よりも講義内容の理解において高い評価をした者が多いといえる。

注:20年卒-21年卒:p=0.0022(両側検定)

20年卒-22年卒:p=0.0638(両側検定)

%

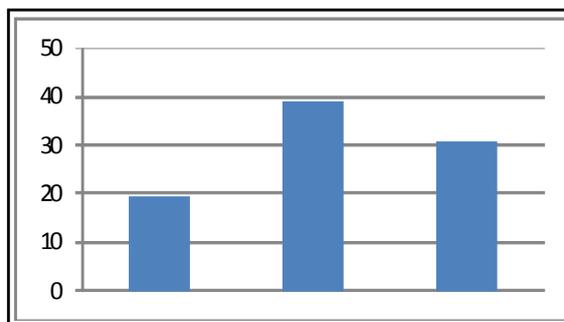
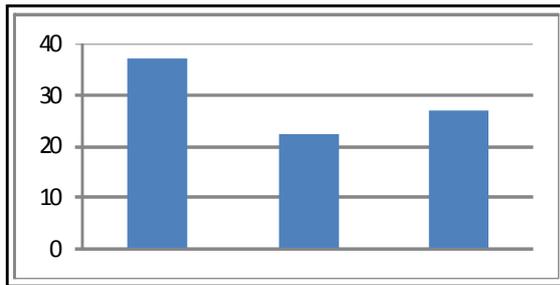


図1-1-2 講義内容の理解

③ 3-1-3 必修の講義時間数 (図 1-1-3)

肯定回答 (多い) は、旧カリ卒者が約 40 %、新カリ卒者が約 20 ~ 40 %で、やや少ない程度であった。21 年新カリ卒者は旧カリ卒者と比べ、人数が有意に少なかった。したがって、新カリ卒者は、旧カリ卒者と比べ、必修の講義時間数が多いと評価した者が少ないといえる。

注：20 年卒-21 年卒：p=0.0244 (両側検定)
%



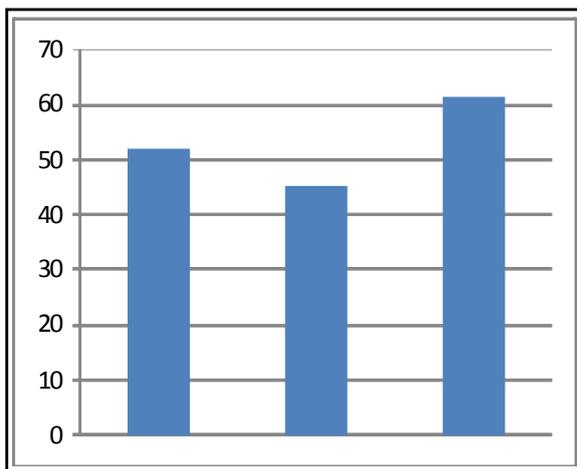
20 年卒 21 年卒 22 年卒
図1-1-3 必修の講義時間数

(2) 受講した実習・演習内容のレベル

① Q3-2-1 実習・演習内容のレベル (図 1-2-1)

肯定回答 (高い) は約 40 ~ 60 %で、中程度であった。新カリ卒者間で人数の差が有意であったが、新カリ卒者と旧カリ卒者の間では人数に差がなかった。

注：21 年卒-22 年卒：p=0.0201 (両側検定)
%



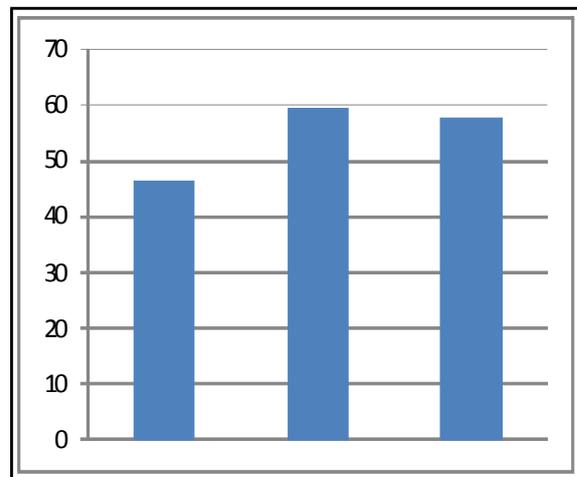
20 年卒 21 年卒 22 年卒
図1-2-1 実習・演習内容のレベル

② Q3-2-2 実習・演習内容の理解 (図 1-2-2)

肯定回答 (分かり易い) は約 40 ~ 60 %で、中程度であった。21 年新カリ年卒者は旧カリ卒者に比べ人数が有意に多い傾向がみられた。したがって、新カリ卒者は、旧カリ卒者

と比べ、実習・演習の内容が分かり易いと評価した者が多いといえる。

注：20 年卒-21 年卒：p=0.0541 (両側検定)
%

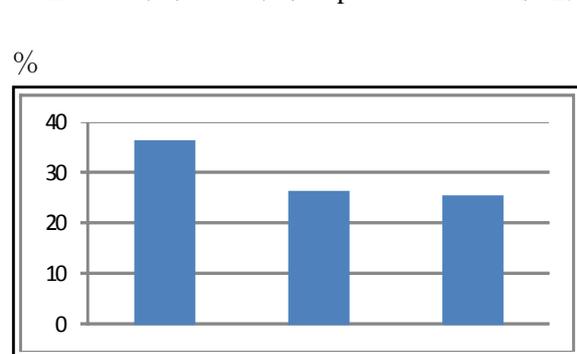


20 年卒 21 年卒 22 年卒
図1-2-2 実習・演習の理解

③ Q3-2-3 実習・演習内容の必修時間数 (図 1-2-3)

肯定回答 (多い) は約 20 ~ 40 %で、やや少ない程度であった。22 年新カリ卒者は、旧カリ卒者に比べ人数が有意に少ない傾向がみられた。したがって、新カリ卒者は旧カリ卒者と比べ、実習・演習の必修時間が多いと評価した者の人数が減少したといえる。

注：20 年卒-22 年卒：p=0.0820 (両側検定)
%



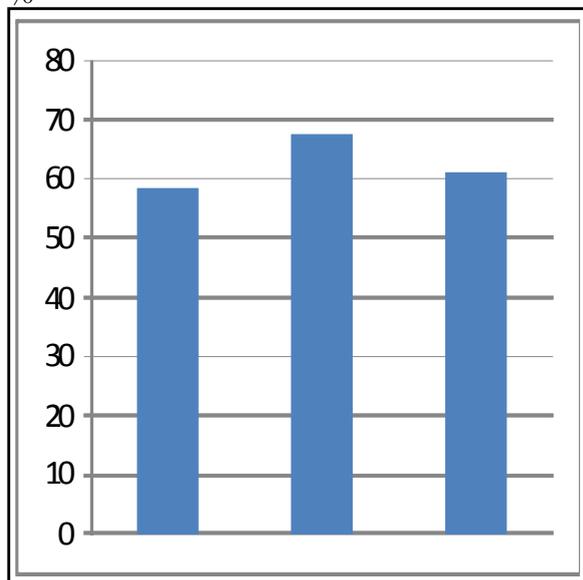
20 年卒 21 年卒 22 年卒
図1-2-3 実習演習内容の必修時間数

(3) 教育実習全体

① Q3-3-1 教育実習の内容のレベル (図 1-3-1)

肯定回答 (高い) は約 60 ~ 70 % で、やや多い程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者では人数に差がなかった。

%

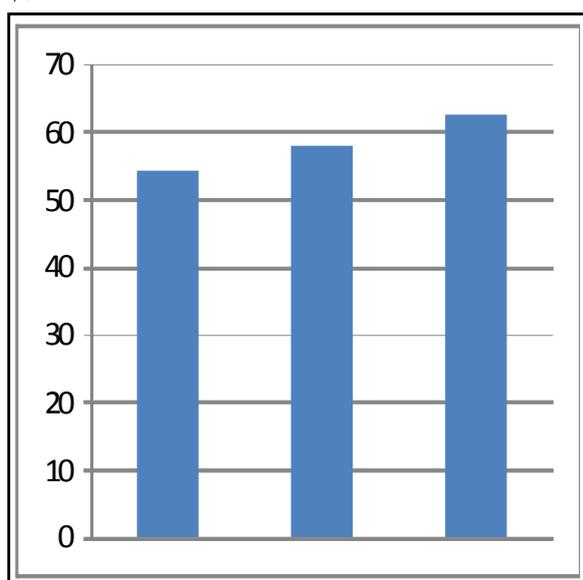


20年卒 21年卒 22年卒
図1-3-1 教育実習内容のレベル

② Q3-3-2 教育実習内容の理解 (図 1-3-2)

肯定回答 (分かり易い) は約 50 ~ 60 % で、中程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者の人数に差はなかった。

%



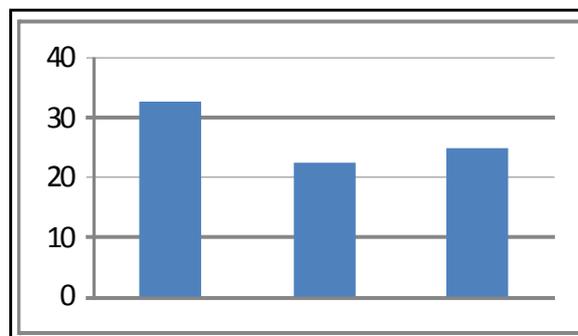
20年卒 21年卒 22年卒
図1-3-2 教育実習内容の理解

③ Q3-3-3 必修とされる教育実習の時間数

(図 1-3-3)

肯定回答 (多い) は約 20 ~ 30 % で、やや少ない程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者で人数に差はなかった。

%



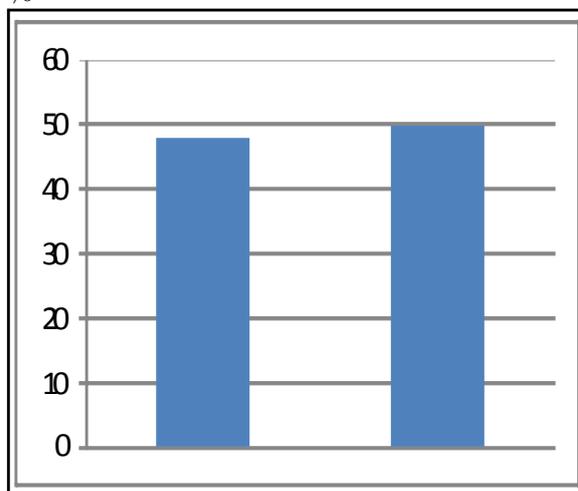
20年卒 21年卒 22年卒
図1-3-3 必修とされる教育実習の時間数

(4) 教職コア科目

Q3-4-1 教師として必要な実践的指導力に役立ったか (図 1-3-1)

肯定回答は約 50 % で、中程度であった。新カリ卒者間では人数に差はなかった。

%



21年卒 22年卒
図1-4-1 実践的指導力に役立ったか

(5) 卒業研究について

① Q3-5-1 教員の指導 (図 1-4-1)

肯定回答 (よい) は約 70 ~ 80 % で、やや多い程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者の人数に差はなかった。

%

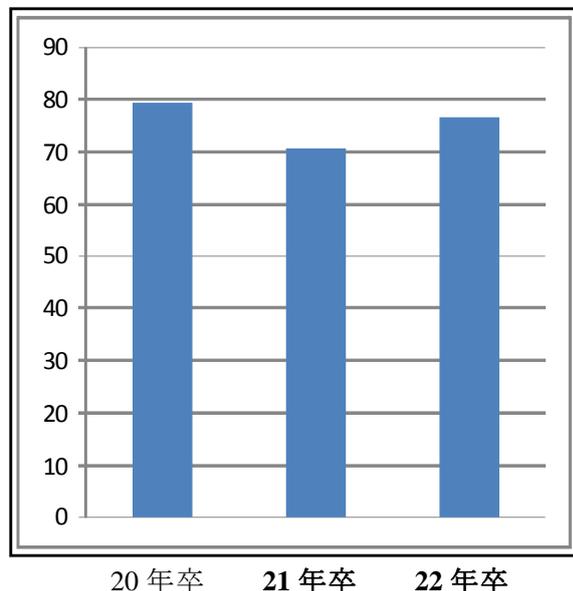


図1-5-1 教員の指導

② Q3-5-2 満足度 (図 1-4-2)

肯定回答 (よい) は約 60 ~ 70 % で、やや多い程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者の人数に差はなかった。

%

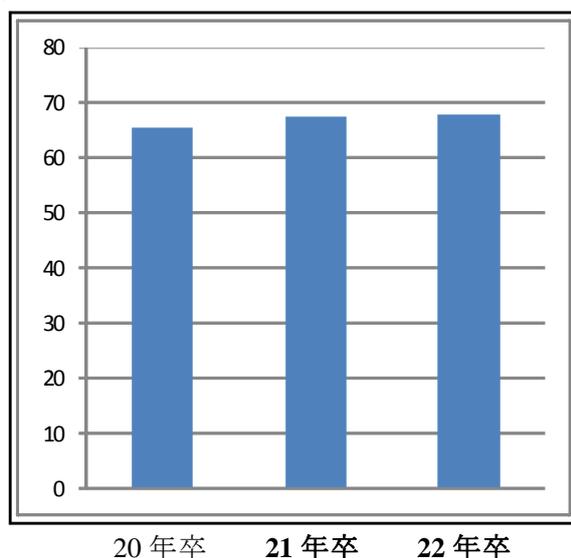


図1-5-2 満足度

(6) 教育環境について

*肯定回答の人数に差のあった項目のみ一部抜粋。

① Q4-5 事務窓口の対応 (図 1-5-1)

肯定回答 (よい) は、旧カリ卒者では、約 10 % と少ない程度であったが、新カリ卒者では約 30 % でやや少ない程度であった。新カリ卒者は、旧カリ卒者と比べ、人数が有意に多かった。したがって、新カリ卒者では、旧カリ卒者と比べ、大学の事務窓口対応がよいと評価している者が多いといえる。

注：20年卒-21年卒：p=0.0000 (両側検定)

20年卒-22年卒：p=0.0008 (両側検定)

%

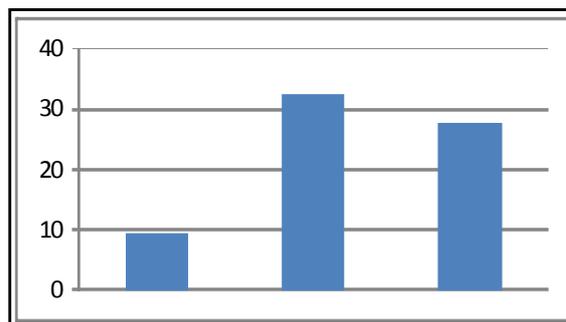


図1-6-1 事務窓口の対応

② Q4-6 大学企画・主催行事の質 (図 1-5-2)

肯定回答 (よい) は、旧カリ卒者は約 30 %、新カリ卒者は約 40 ~ 50 % で、いずれも中程度であった。22年新カリ卒者は、旧カリ卒者との比べ人数が有意に多かった。したがって、新カリ卒者では、旧カリ卒者と比べ、大学企画・主催行事の質がよいと評価する者が多いといえる。

注：20年卒-22年卒：p=0.0007 (両側検定)

%

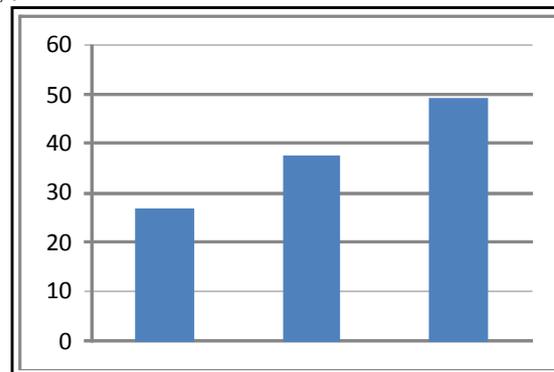


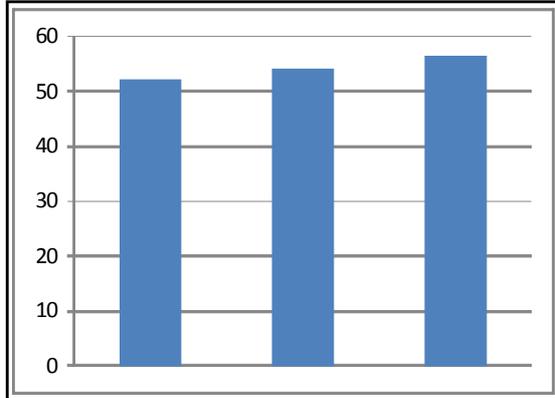
図1-6-2 大学企画・主催行事の質

(7) 大学教員について

① Q5-1 教授・指導力 (図 1-6-1)

肯定評価 (よい) は、約 50 ~ 60 % で、中程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者では、人数に差がなかった。

%

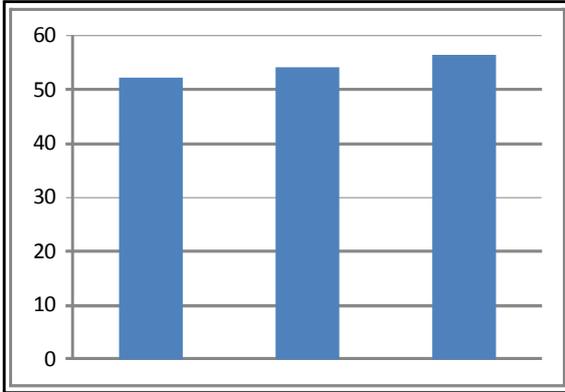


20 年卒 21 年卒 22 年卒
図1-7-1 大学教員の教授・指導力

② Q5-2 人間的・教育的愛情 (図 1-6-2)

肯定回答 (よい) は、約 50 ~ 60 % と中程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者では、人数に差がなかった。

%



20 年卒 21 年卒 22 年卒
図1-7-2 教員の人間的・教育的愛情

(8) 学生生活

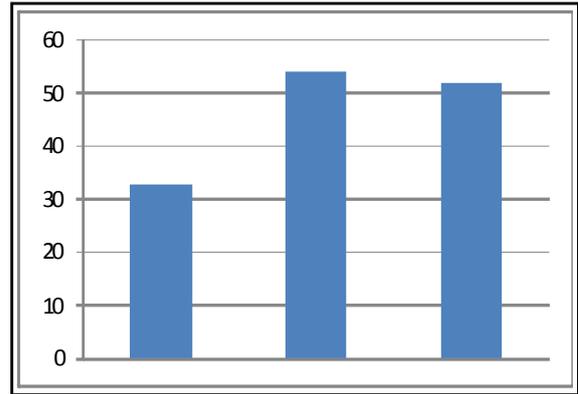
① Q6-1 修学支援 (図 1-7-1)

肯定回答 (よい) は、旧カリ卒者は約 30 % でやや少ない程度であったが、新カリ卒者は約 50 ~ 60 % で中程度であった。新カリ卒者は旧カリ卒者と比べ人数が有意に多かった。したがって、新カリ履修者は、旧カリ履修者と比べ、学生支援がよいと評価している者が多いといえる。

注：20 年卒-21 年卒：p=0.0021 (両側検定)

20 年卒-22 年卒：p=0.0061 (両側検定)

%



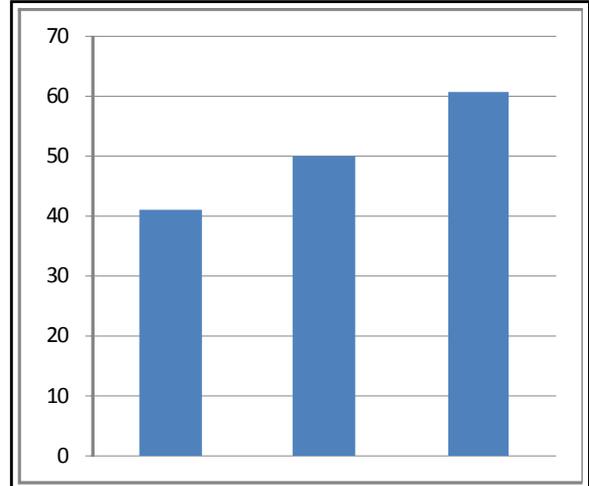
20 年卒 21 年卒 22 年卒
図1-8-1 修学支援

② Q6-2 就職・進学支援 (図 1-7-2)

肯定回答 (よい) は旧カリ卒者が約 40 %、新カリ卒者が約 50 % で、いずれも中程度であった。旧カリ卒者は 22 年新カリ卒者と比べ人数が有意に多かった。したがって、新カリ履修者は、旧カリ履修者に比べ、就職・進学支援について高く評価している者が多いといえる。

注：20 年卒-22 年卒：p=0.0045 (両側検定)

%



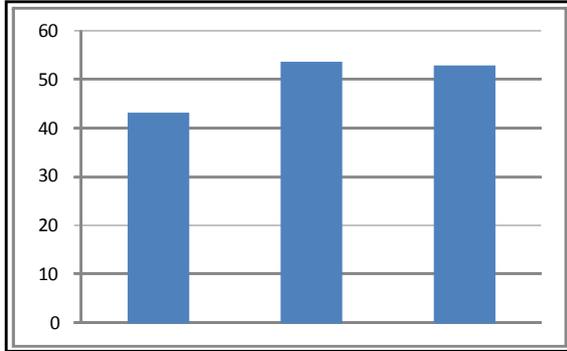
20 年卒 21 年卒 22 年卒
図1-8-2 就職・進学支援

(9) 本学で学んだことの成果

① Q7-1 教育内容の理解度 (図 1-8-1)

肯定回答(よい)は約 40～50%で、中程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者で人数に差はなかった。

%



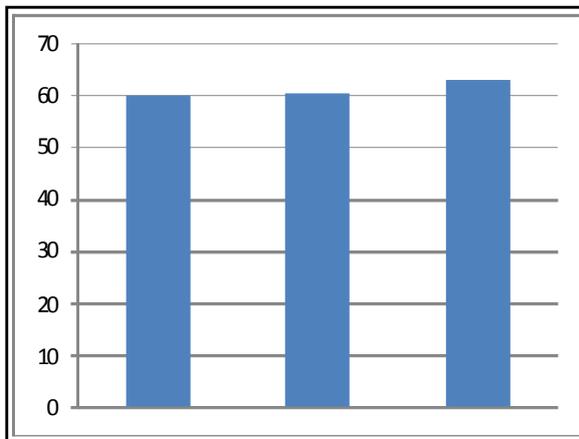
20年卒 21年卒 22年卒

図1-9-1教育内容の理解度

② Q7-2-1 幅広く豊かな教養 (図 1-8-2)

肯定回答(身に付いた)は約 60%で、やや高い程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者で人数に差はなかった。

%



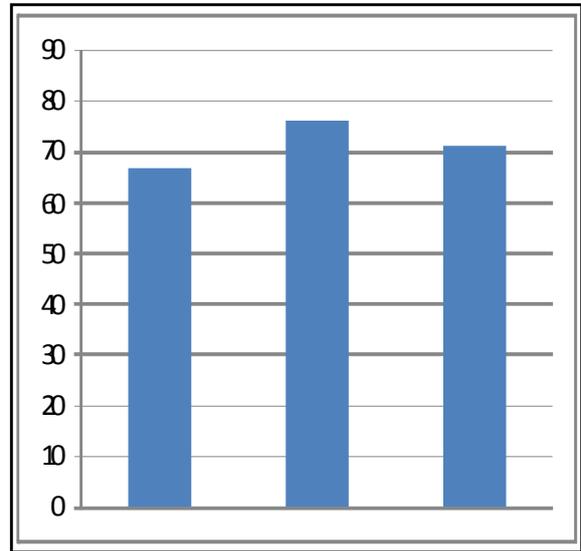
20年卒 21年卒 22年卒

図1-9-2 幅広く豊かな教養

③ Q7-2-2 強い責任感 (図 1-8-3)

肯定回答(身に付いた)は約 70～80%で、やや高い程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者で人数に差はなかった。

%



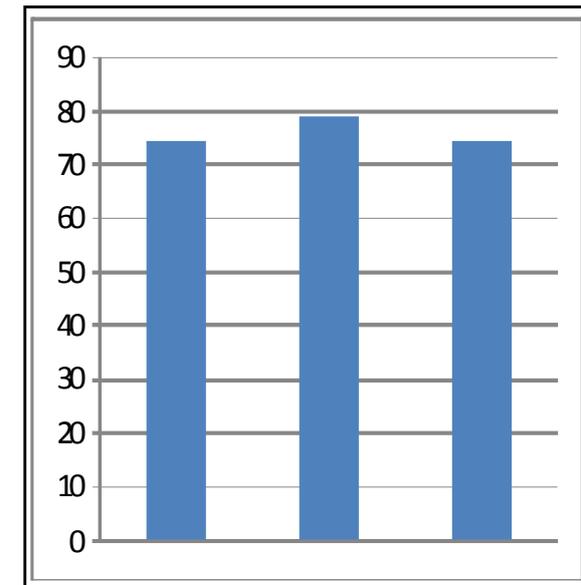
20年卒 21年卒 22年卒

図1-9-3 強い責任感

④ Q7-2-3 コミュニケーション能力・折衝能力 (図 1-8-4)

肯定回答(身に付いた)は約 70～80%で、やや高い程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者で人数に差はなかった。

%



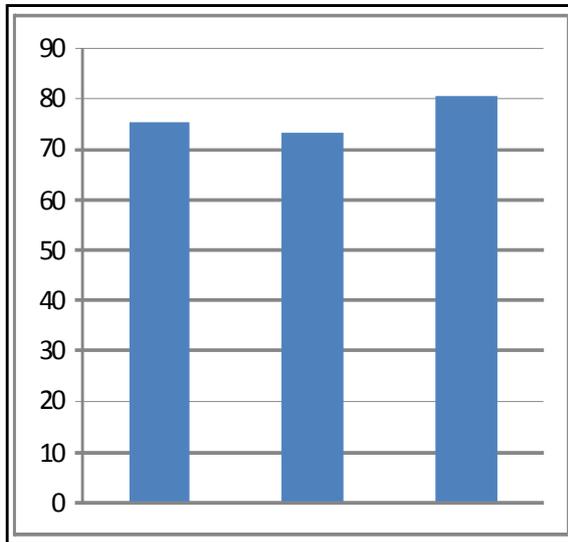
20年卒 21年卒 22年卒

図1-9-4 コミュニケーション能力・折衝能力

⑤ Q7-2-4 他者に対する人間的愛情 (図 1-8-5)

肯定回答(身に付いた)は約 70 ~ 80 %で、やや高い程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者で人数に差はなかった。

%

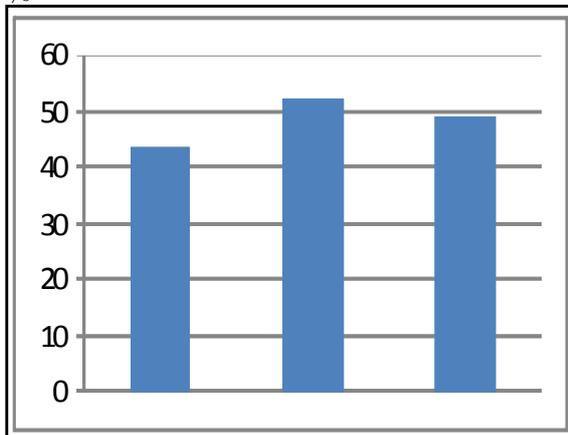


20年卒 21年卒 22年卒
図1-9-4 他者に対する人間的愛情

⑥ Q7-2-5 創造性 (図 1-8-5)

肯定回答(身に付いた)は約 40 ~ 50 %で、やや少ない程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者で人数に差はなかった。

%

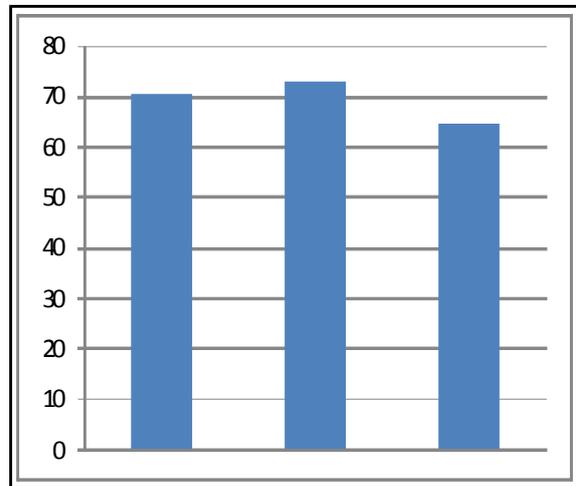


20年卒 21年卒 22年卒
図1-9-5 創造性

⑦ Q7-2-6 精神的強さ (図 1-8-6)

肯定回答(身に付いた)は約 60 ~ 70 %で、やや。旧カリ卒者と新カリ卒者で人数に差はなかった。

%

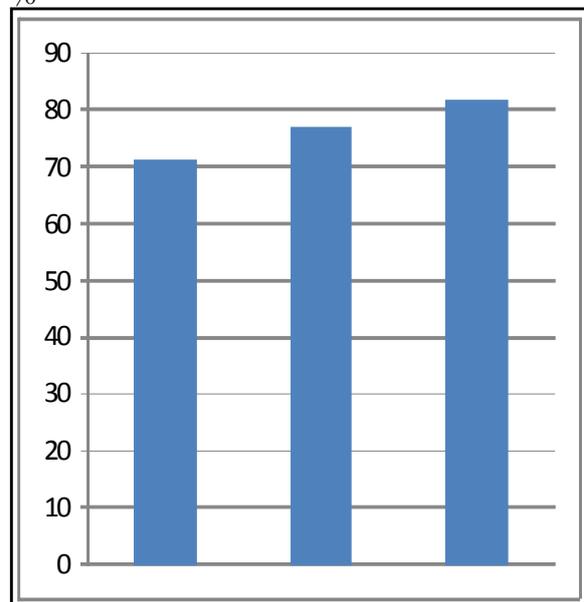


20年卒 21年卒 22年卒
図1-9-6 精神的強さ

⑧ Q7-2-7 協調性 (図 1-8-7)

肯定回答(身に付いた)は約 70 ~ 80 %で、やや多い程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者で人数に差はなかった。

%

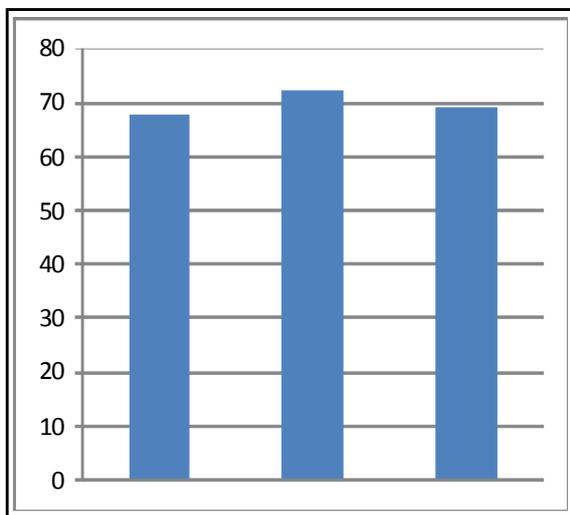


20年卒 21年卒 22年卒
図1-9-7 協調性

⑨ Q7-2-8 社会規範・マナー (図 1-9-8)

肯定回答(身に付いた)は約 70 %で、やや多い程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者で人数に差はなかった。

%



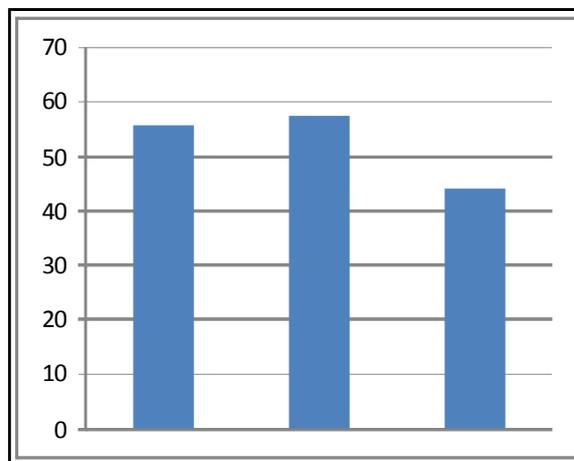
20年卒 21年卒 22年卒

図1-9-8 社会規範・マナー

⑩ Q7-2-10 情報活用能力 (図 1-8-10)

肯定回答(身に付いた)は約 40 ~ 60 %で、中程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者では人数に差はなかった。

%



20年卒 21年卒 22年卒

図1-9-10 情報活用能力

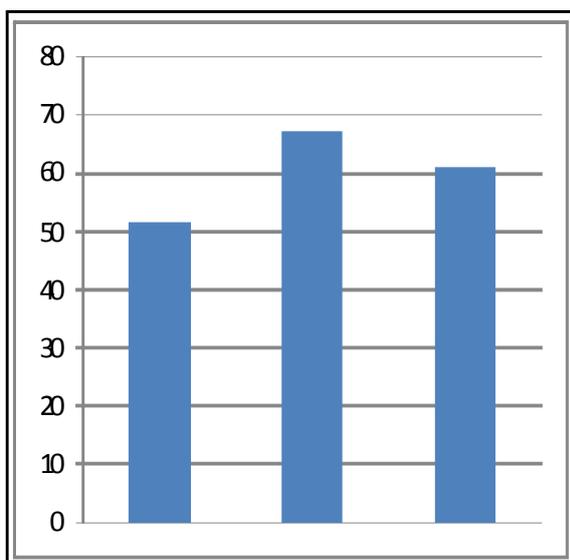
⑪ Q7-2-9 リーダーシップ・実行力 (図 1-8-9)

肯定回答(身に付いた)は、旧カリ卒者は約 50 %で中程度、新カリ卒者は約 60 ~ 70 %でやや多い程度であった。新カリ卒者は、旧カリ卒者との比べ人数が有意に多かった。したがって、新カリ卒者は、旧カリ卒者に比べ、リーダーシップ・実行力が身についたと評価している者が多いといえる。

注：20年卒-21年卒：p=0.0235 (両側検定)

20年卒-22年卒：p=0.0840 (両側検定)

%



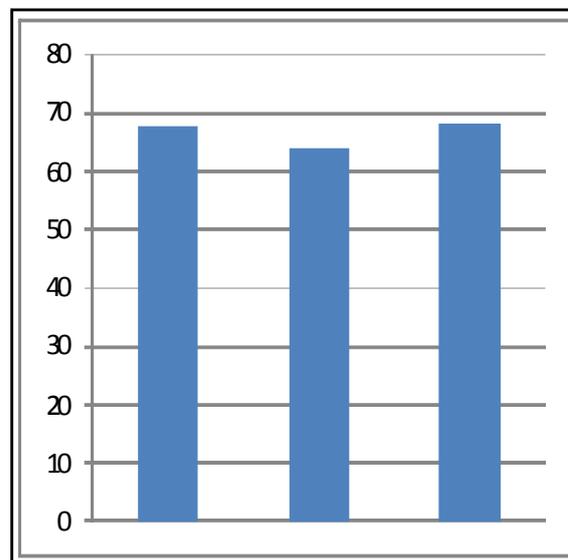
20年卒 21年卒 22年卒

図1-9-9 リーダーシップ・実行力

⑫ Q7-2-11 授業方法能力 (図 1-8-11)

肯定回答(身に付いた)は約 60 ~ 70 %で、やや多い程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者で人数に差はなかった。

%



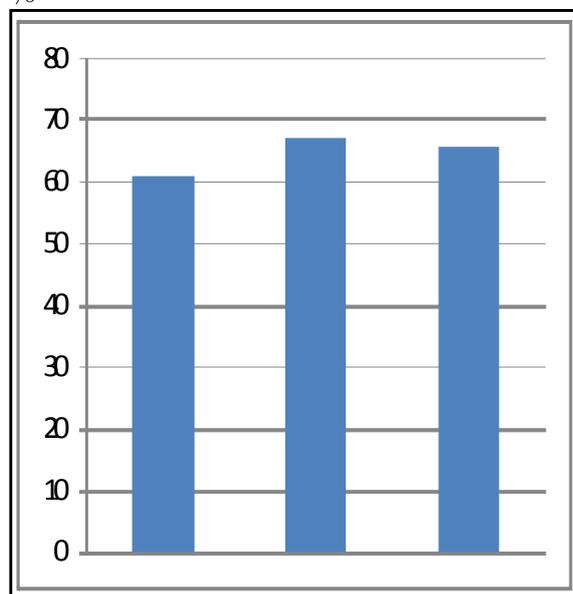
20年卒 21年卒 22年卒

図1-9-11 授業方法能力

⑬ Q7-2-12 教材研究開発能力 (図 1-8-12)

肯定回答(身に付いた)は約60~70%で、やや多い程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者で人数に差はなかった。

%



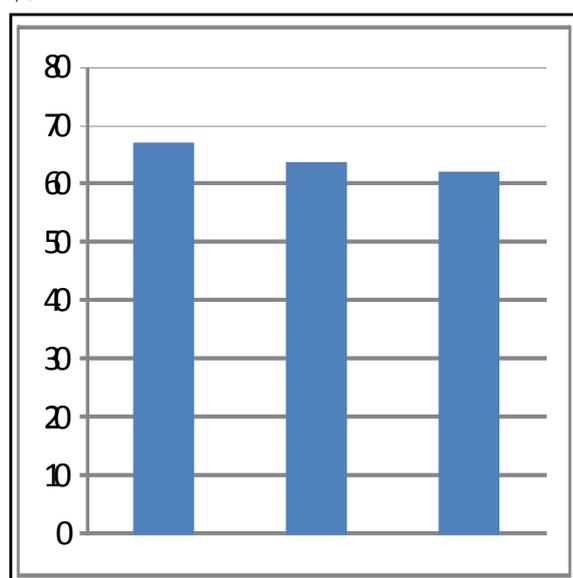
20年卒 21年卒 22年卒

図1-9-12 教材研究開発能力

⑭ Q7-2-13 専門領域における知識 (図 1-8-13)

肯定回答(身に付いた)は約60~70%で、やや多い程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者で人数に差はなかった。

%



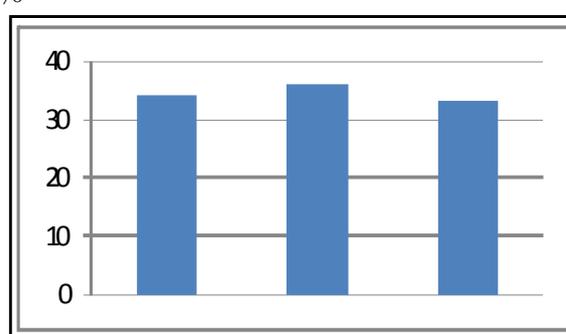
20年卒 21年卒 22年卒

図1-9-13 専門領域における知識

⑮ Q7-2-14 学級経営能力 (図 1-8-14)

肯定回答(身に付いた)は約30~40%で、やや少ない程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者で人数に差はなかった。

%



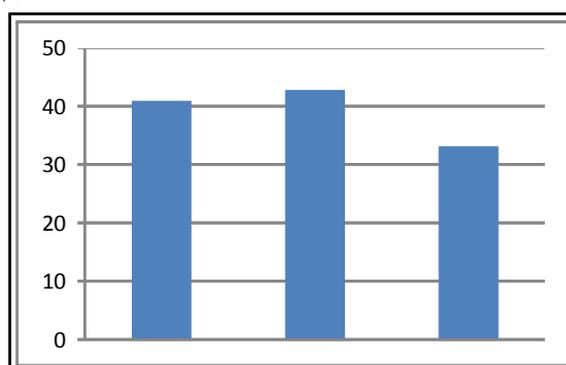
20年卒 21年卒 22年卒

図1-9-14 学級経営能力

⑯ Q7-2-15 生徒指導能力 (図 1-8-15)

肯定回答(身に付いた)は約30~40%で、やや少ない程度であった。旧カリ卒者と新カリ卒者で人数に差はなかった。

%



20年卒 21年卒 22年卒

図1-9-15 生徒指導能力

(10) 総合評価

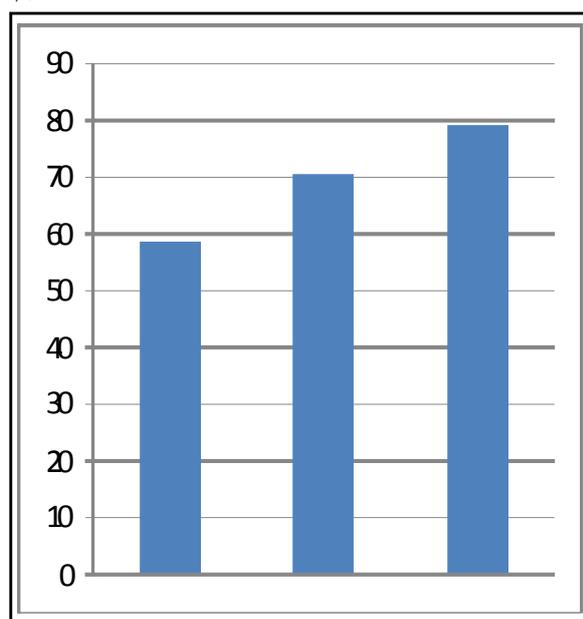
Q7-3 本学の教育内容の有効性(図 1-10-1)

肯定回答(思う)は、旧カリ卒者は約 60%で中程度、新カリ卒者は約 70～80%でやや多い程度であった。新カリ卒者は、旧カリ卒者と比べ人数が有意に多かった。したがって、本学の教育内容については総合的にみて有効(社会に出て役立つ・活かせる)と評価している学生が多いといえる。

注：20年卒-21年卒： $p=0.0798$ (両側検定)

20年卒-22年卒： $p=0.0089$ (両側検定)

%



20年卒 21年卒 22年卒

図1-10-1本学のカリキュラムの有効性

II 教員となった学部卒業生の本学学部カリキュラムの評価(報告2)

1. 目的

本報告の目的は、新カリ卒者と旧カリ卒者で卒業時(3月)に実施した前述の調査結果と同一の質問紙を用いて、徳島県の教員として採用され、教職を経験した者を対象に調査を行い、本学の新旧カリキュラムについてどのように評価しているかを、新カリ卒者と旧カリ卒者で比較検討することにある。

なお、本調査では対象者を徳島県内に限定したため対象者数も少ない。したがって、それぞれのカリキュラム履修者を代表するものではないので、結果の比較検討にあたり、踏み込んだ考察を控えることにした。

2. 方法

調査年月 2010年8月

調査対象 鳴門教育大学卒業生で、徳島県内の公立学校教員として採用になった者20名。旧カリキュラム履修生(平成20年度以前の卒業生)12名、新カリキュラム履修生(平成21年度以降の操業生)8名である。

調査内容 添付資料参照

調査手続 指導教員を通して徳島県の公立学校教員として採用になった者を紹介してもらい、郵送法により回答を求めた。

3. 結果と考察

(1) 旧カリ卒者と新カリ卒者で差のみられた項目

旧カリ卒者と新カリ卒者で有意差があったのは Q2-1-1(講義内容のレベル)のみであった($t(19)=3.046, p<.01$)。つまり、講義内容のレベルについて、旧カリ卒者よりも新カリ卒者のほうが高いと評価していた。それ以外は差異はなかった。

(2) 評価の高い項目と低い項目

①新カリ卒者、旧カリ卒者ともに評価が高かった項目(4点以上)。

Q3-3-1(教育実習の内容のレベル)

Q3-3-2(教育実習の内容理解)

Q5-2(大学教員の指導：人間的・教育的愛情)

Q7-2-7(本学で学んだ具体的成果：協調性)

Q7-3(総合評価：本学教育内容の有効性)

②新カリ卒者で高かった項目(4点以上)。

Q3-2-2(実習・演習の内容理解)

Q4-2(教育環境：学習機材の設備)

Q4-6(大学が企画・主催する行事の質

<合宿、就職ガイダンス、教授対策等>)

Q6-2(学生生活：就職・進学支援)

Q7-2-4(本学で学んだことの成果：他者に対する人間的愛情)

③特に低かった項目(3点以下)：新カリ卒者のみ記載

Q4-4(学内のゼミ室等個別的学习環境)

Q7-2(本学で学んだことの成果：学級経営能力、生徒指導能力)

(3) 自由記述の分析結果(表1)

本学の良かったところは、旧カリ、新カリを問わず、少人数による指導や学習環境を挙げた者が多かった。また立地条件に関連し、自然に恵まれた環境を挙げたものも多い。

次に、改善してほしいところは、授業実践力に生きる指導を挙げた者が多かった。この結果は、実際に学校の教員となり、「授業力」

不足を実感したことによると推測される。同様に、生徒指導・学級経営力を挙げている者

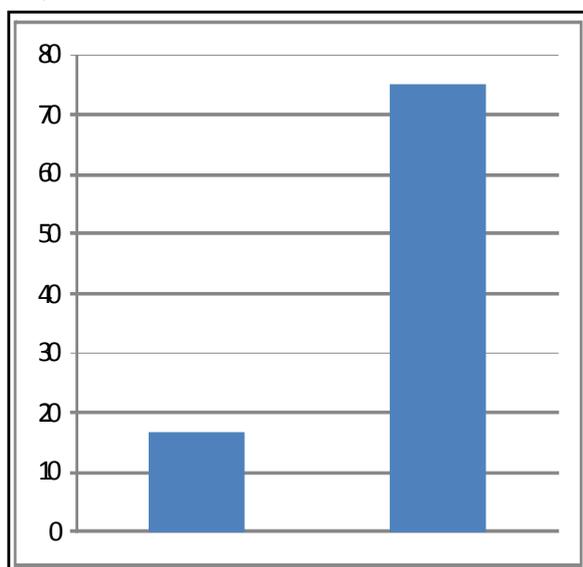
もみられる。これらは、卒業時（3月）の調査結果（本報告I）とも重なる。

表1 自由記述のカテゴリーと人数

自由記述の内容	旧カリ卒者(12名)	新カリ卒者(8名)
・本学の良かったところ		
少人数による指導・学習環境	8名	4名
自然に恵まれた環境	4名	2名
施設のよさ	1名	1名
・本学の改善してほしいところ		
授業実践力に生きる指導	3名	3名
生徒指導・学級経営力	2名	
食堂のメニュー	1名	
学生定員が少ない	1名	
就職支援のあり方	1名	
ピアノ練習室の解放		1名
コースによる学習環境の格差		1名

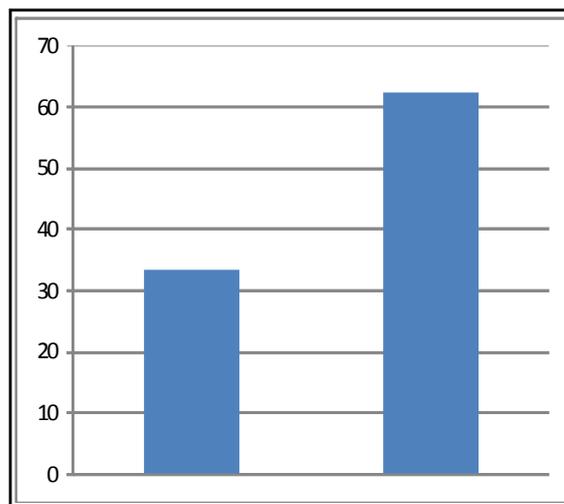
(4) 旧カリ卒者より新カリ卒者の方が肯定回答(例:高い)の割合(人数)が比較的大きかった項目

①講義内容のレベル (Q3-1-1:高い)
%



旧カリ (12名) 新カリ (8名)

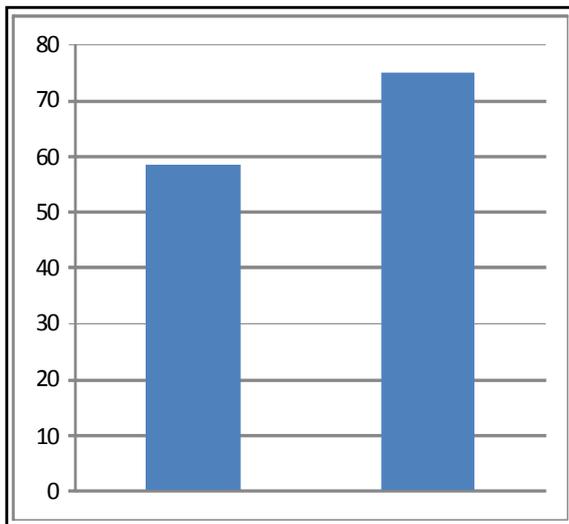
②講義内容の理解 (Q3-1-2:分かり易い)
%



旧カリ (12名) 新カリ (8名)

③実習・演習の内容理解 (Q3-2-2: 分かり易い)

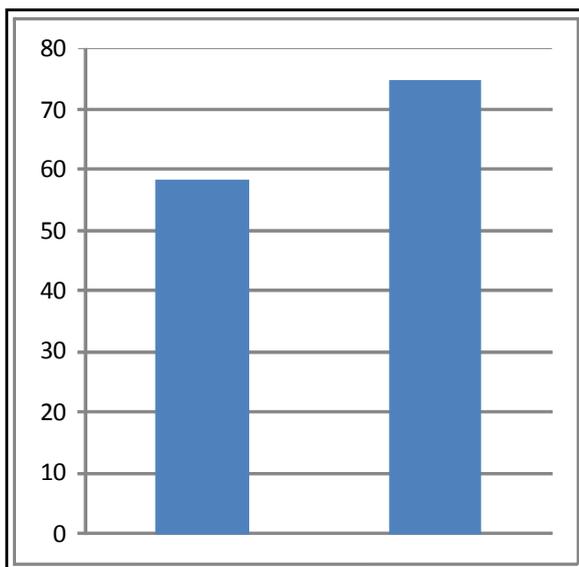
%



旧カリ (12名) 新カリ (8名)

④就職・進路支援 (Q6-2: よい)

%

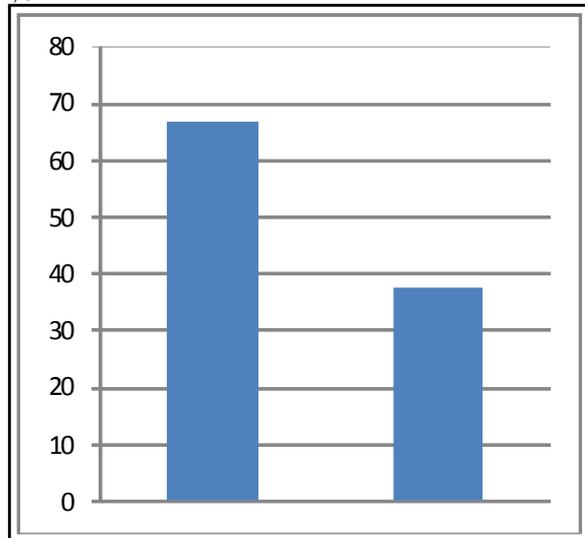


旧カリ (12名) 新カリ (8名)

(5) 新カリ卒者より旧カリ卒者の方が肯定回答の割合が比較的大きかった項目

①図書館の蔵書・環境 (Q4-3: よい)

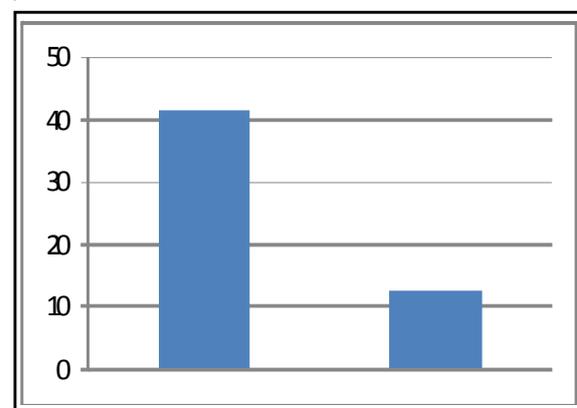
%



旧カリ (12名) 新カリ (8名)

②学級経営能力 (Q7-2-14: 身に付いた)

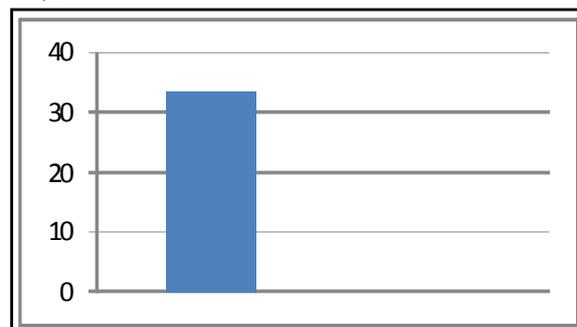
%



旧カリ (12名) 新カリ (8名)

③生徒指導能力 (Q7-2-15: 身に付いた)

%



旧カリ (12名) 新カリ (8名)